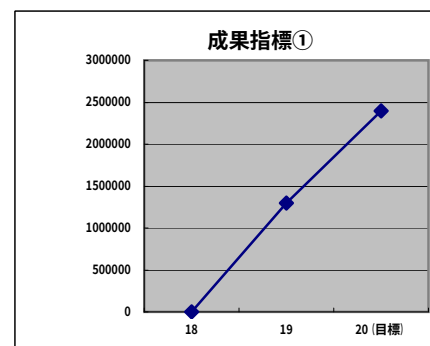
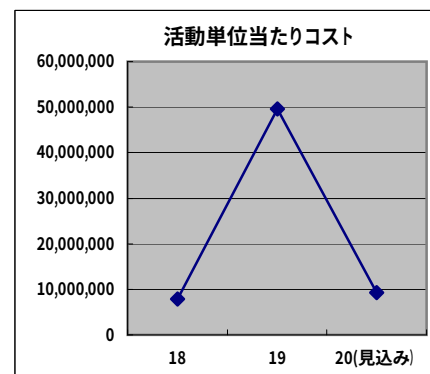


事務事業名		古市駅前西地区再開発促進事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	8	土木費
					項	4	都市計画費
					目	4	都市整備推進費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	事業	55	古市駅前西地区再開発促進	
	施策(節)	7	土地利用・市街地整備	作成部署 都市開発部都市計画課			
	施策の方向	(2)	良好な市街地の形成	連絡先 072 - 958 - 1111 内線 2573			
関連する計画等 羽曳野市都市計画マスタープラン							
事業の目的							
対象(誰を・何を)							
古市駅前西地区							
意図(どういう状態にしたいのか)							
市の玄関口として魅力ある中心市街地として活性化を図る。							
事業の内容							
(全体事業の内容)							
敷地を一体的・総合的に整備し土地の有効利用を図り、地域にふさわしいまちづくりを行う。							
(暫定利用事業の内容)							
当面は暫定利用として駅前駐車場の整備を行っており、古市駅への送迎車の利活用を勧めることで駅前混雑の緩和に努める。そのために、利活用が促進されるよう広報等を通じて周知活動を行っている。							
根拠法令等 バリアフリー法、都市計画法							
事業開始時期 ☒ 昭和 ☐ 平成 63 年 月開始 ☐ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度							
事業開始時からの状況変化 バブル崩壊後、事業協力者の撤退などにより厳しい状況であり、再開発事業は一時休止状態である。							
市民や議会の要望 駅前広場としての整備要望がある。							
実施手法 ☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()							
委託先		☐ 外郭団体委託 名称		委託内容 古市駅西駐車場運営管理に関する業務			
		☒ 民間委託					

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		2,863	42,038	100
人件費【2】 (千円)		5,040	7,560	9,240
職員数	正規職員	0.60 人	0.90 人	1.10 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		7,903	49,598	9,340
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	7,903	49,598	9,340
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
① 駅前整備事業の設計、整備、運営	件	1	1	1
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		7,903,000 円	49,598,000 円	9,340,000 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		66 円	413 円	78 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	①	事業収益額(円)	駅前駐車場事業収益	目標	0	160,000	達成率(%)
				実績	0	1,295,500	809.7%
	②	(式)		目標			達成率(%)
				実績			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	古市駅前混雑の緩和と市の玄関口として魅力ある中心市街地として活性化を図る。
		○							○		

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	駅前混雑の緩和と市の玄関口として魅力ある中心市街地として活性化を図る。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		国・府の事業と重複していない	☐	☐	☒	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☒	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☒	☐	☐	最小の経費で対応している。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
人員を削減する余地がない		☒	☐	☐		
事業費を削減する余地がない		☒	☐	☐		
簡略化できる方法や手段がない		☒	☐	☐		
市の他事業と重複していない		☒	☐	☐		
民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない		☐	☒	☐		
有効性	上位の施策（目的）が明確である	☒	☐	☐	暫定利用での土地活用による駅前混雑の緩和、市の玄関口としての魅力の向上を図るのに有効である。	
	上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☒	☐	土地所有者・周辺住民の理解と協力で行える事業である。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	駅前広場用地の一部暫定整備（駐車場整備）により有効活用されている。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	再開発事業については現在休止状態であるが、駅前広場の暫定利用として古市駅周辺の混雑緩和を目的に駐車場を整備し、広報等で周知PRした結果、市民の利用が日々増加し収益が出ている。駅への送迎利用等を通じて駅前広場及び再開発促進の気運につながる。
	今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）
	再開発準備組合については動きが無く、今後組合組織の再構築を促進し、事業の促進に向け協働して進める。駅前広場については今後、周辺のバリアフリー化の動向にあわせながら都市計画道路の整備計画や市の財政状況を考慮し検討する。 （暫定整備面積0.22ha）